



学校教育目標

☆ともに学ぶ生徒

☆こころ豊かな生徒

☆ともに鍛える生徒

熊谷の子どもたちは、これができます！

「生きる力」= 学力・体力・やる気

- ㊦ 朝ごはんをしっかり食べる。
- ㊧ 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする
- ㊨ 「ありがとう」「ごめんなさい」と言う
- ㊩ 友だちをたくさんつくる。

「3減運動」

- ・テレビの時間
- ・ゲームの時間
- ・携帯電話やパソコンの時間



増やします！

- 家族との会話
- 予習・復習の時間
- 読書の時間

大人が手本となって

人権について考える ～前期人権週間から～

人権とはなんでしょうか。「一人一人に必ずあり、すべての人が幸せになる権利」です。だれにとっても大切なもの、守らなければならないものです。まだ、学校全体で集まることができないので、今年は放送での人権講話としました。教室で担任からも人権の大切さに触れ、その後、各自で考えを深めることができました。

人権講話は、「こだまでしょうか」という詩を取り上げ、「言葉の大切さ」について話しました。「こだまでしょうか」は、金子みすゞさんという大正時代に活躍した人の作品です。10年前の東日本大震災後のCMになり、よくテレビで放送されていました。

こだまでしょうか

| | |
|--------------|------------|
| 「遊ぼう」というと | 「遊ぼう」という。 |
| 「ばか」というと | 「ばか」という。 |
| 「もう遊ばない」というと | 「遊ばない」という。 |
| そうして、あとで | さみしくなって、 |
| 「ごめんね」というと | 「ごめんね」という。 |
| こだまでしょうか、 | いいえ、だれでも。 |



たった一言で、人は傷つく、たった一言で人は微笑む。自分が優しく話しかければ、きっと相手もおだやかに答えてくれる。言葉は、人から人へ「こだま」します。と、解説がありました。東日本大震災という大災害があり、人々の心が疲れている時、人を気遣う言葉かけの大切さを訴えていました。

言葉は、相手との人間関係をよくしたり、仲良くなったりできるものです。相手のことをよく考えた言葉であれば、相手はそれを受け止めて、温かい言葉で返してくれます。それは、お互いの気持ちが響き合い、「こだま」のようになります。そして、それは誰でもできることです。今、入学や進級で環境が変わり、新しい友達ができる時です。クラスの中で、相手のことを考えたやさしい言葉を交わし、よい人間関係を築いていけるといいですね。